

広島大学

令和 8 年度一般選抜(前期日程)・
総合型選抜外国人留学生型 2 月実施

解答例・出題の意図等

科目名：

現代の国語・言語文化(近代以降の文章)・
論理国語・文学国語(近代以降の文章)

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

【出題の意図】

第一問は、論理的文章についての問題です。今年度は曾我亨「自助努力を否定する社会」の文章を題材としました。この文章では、牧畜民ガブラ社会の「信託」のあり方を通じて、近代資本主義では自明となつている「自助努力」について相対化する視座が提出されています。筆者の主張を正確に把握する読解力、思考力とそれを的確にまとめる表現力を問いました。

第二問は、文学的内容をもつ文章についての問題です。今年度は遠藤周作の小説「あまりに碧い空」を題材としました。主人公の「戦後」に対する嫌悪感の原因について、回想で示されている部分を含めて正確に読み取る読解力と、その複雑な心情を説明し、的確に表現する力を問いました。

第三問は、随筆的文章についての問題です。今年度は三木那由他「言葉だけの場所」の文章を題材としました。この文章では、トランスジェンダーの立場から、ブログやSNSといったオンライン・プラットフォームにおける居心地の良さの所以について述べられています。筆者の心情や、筆者の紹介する言語の意味の捉え方について、正確な理解とそれを的確に表現する力を問いました。

第一問 解答例

問一 a 慈 b 規範(軌範) c 利潤 d 尊厳 e 委

問二 ラクダの受託を望む者が、何年にも渡って繰り返し手土産を携えて所有者を訪れて預託を要請し、所有者に誠実さを認められて受託を許されるという過程。

問三 信託されたラクダの子孫を他者へ二次信託することが繰り返され、所有者を起点とする預託者と受託者の人間関係が連鎖的に多数生じているということ。

問四 飼育しているラクダがかんばつや疫病、敵対する牧畜民の略奪などにより全滅したとしても、他人に預託していたラクダを元手に、家畜群を再構築できるという点。

問五 神が働きかけている者とは禁欲的な生活態度や勤勉な職業生活という性質を持つ者であると考えており、善行によって、このような性質をみずから備えていることを意識できたため。

問六 他人の助けは決できない

問七 怒りの感情を抱いた相手を告訴すること。

問八 近代的思考においては、自助努力は自明であり、これを行わない者は怠惰で不道德とされ、自助努力によって個人の主体性が回復できるとされるのに対し、ガブラ社会に暮らす人々の思考においては、自助努力は放棄され、他人の助けを得ることが重視され、個人の主体性は他人の助けをかりることで回復できるとされる。

第二問 解答例

問一 テニスコートでは今日

問二 戦時下においてテニスをすることは控えるべきものとされていたから。

問三 白い運動服を着てテニスコートでプレイのまねごとをすることによって、戦争による死に抗おうとしていると理解した。

問四 激しい空襲が連日続いていたので、いつでも動けるようにするため。

問五 杉の両親が命の危機が迫っているのに身の回り品や食糧を手放さない態度。

問六 自分が死ぬことについて考えていない点。

問七 戦争によって理不尽に命を絶たれた人々を見聞きし、自分も死ぬことを予感していたが、そうした死と対峙した経験を忘

れ去ることで明るい日常を謳歌している戦後という時代に反発を覚えたから。

第三問 解答例

問一 筆者には自分の「本当の姿」がはっきり分からず、それを形にして自分の分身を作り出さねばならない状況が苦手であり、自分のいない世界において他人が語り、思考するような物語を見るほうがよいと思ったから。

問二 自分を消したい気持ちと言葉を書きたい気持ちとを両立させることができたから。

問三 そもそも、

問四 1 文の意味を可能世界の集合とする立場

2 たとえ、どのような可能世界においても真になる事柄を述べた場合であっても、発話者は具体的な状況の中で何かを伝えようとしているのであり、その事柄を含む発話と含まない発話には意味上の違いがあると考える方。

問五 ブログやSNSは具体的な状況の方を「空欄」にしてしまい、はっきりとは何を伝えているのかわからない言葉を見た人は想像力を働かせて「私の存在」を逆算するが、それが現実の筆者とは乖離しがちであることに居心地の良さを感じていたりと考えている。